



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3956 号 2017.10.14 発行

### 障害者アートの見本市 たたら侍ポスター展示 出雲のNPO、きょうから / 島根



毎日新聞 2017年10月13日  
見本市に絵を出展する芸術家や支援するスタッフら=島根県出雲市のビッグハート出雲で、山田英之撮影

障害者の芸術活動を支援するNPO法人「サポートセンターどりーむ」（出雲市東福町）は13～15日に、ビッグハート出雲（同市駅南町1）で障害者アートの見本市を開く。NPOのアトリエに通う芸術家が描き、映画「たたら侍」のポスターに採用された作品や、JR三江線の思い出を描いた作品など約500点を展示販売する。午前11時～午後4時。入

場無料。

統合失調症の治療を続ける出雲市の藤田康弘さん（46）は12日、仲間と会場設営を手伝った。

### 建築基準法見直しへ、国土交通省、「空き家から福祉施設へ」など用途変更しやすく

住宅産業新聞 2017年10月13日

国土交通省は6日、社会資本整備審議会建築分科会と建築基準制度部会の合同会議を開催した。空き家が加速度的に増加していることから、保育所や高齢者向け住宅など需要のある施設への用途変更を円滑化させたい考え。現状では共同住宅と高齢者向け住宅などでは容積率に参入する床面積の扱いに違いがあるほか、戸建住宅を訪日外国人の需要を見込んで飲食店・宿泊施設などに転用する場合には柱や梁などを耐火構造とする必要がある。安全性は確保したまま合理化を進めることを狙いとし、現状では各自治体の運用によって合理化が進められているものなどを中心に、類型化できる用途変更の手続きを見直す。今年度中にとりまとめ、必要な法改正があれば次期通常国会で改正法案を提出する意向だ。

### 障害者と企業を仲介 都、社福協に専門家配置

日本経済新聞 2017年10月13日

東京都は障害者の社会参加を進めるため、障害者と企業を仲介する事業を始める。東京都社会福祉協議会（東京・新宿）に補助金を出し、運営を委ねる。障害者福祉や企業情報

に詳しい専門のコーディネーターを配置。障害者が希望する仕事を調べるほか、企業に協力を呼びかける。2018年春にも第1弾の連携事業を始める。

### 児相職員の胸ぐらをつかんだ疑いで32歳男逮捕 息子2人負傷、虐待の可能性について聴取中に…兵庫県警

産経新聞 2017年10月13日

神戸市こども家庭センター（児童相談所）の職員の胸ぐらをつかんだとして、兵庫県警神戸水上署は13日、公務執行妨害の疑いで、神戸市兵庫区の無職の男（32）を逮捕した。「腹が立ってつかんだ」と容疑を認めているという。

逮捕容疑は12日午後、神戸市中央区港島南町の病院内で、数日前にけがをして搬送された男の1歳と2歳の息子について事情を聴いてきた児相の男性職員（38）の胸ぐらをつかんだとしている。職員にけがはなかった。

同署によると、男は妻と友人とともに病院を訪れていたという。搬送された2人の命に別条はなかったが、同署は2人に対する虐待がなかったかも捜査する方針。

### “作家”香取慎吾 退社後初アート展出展！障がい者の芸術文化支援「こんなにうれしいことはない」

スポニチ 2017年10月13日

香取慎吾 Photo By スポニチ

元SMAPの香取慎吾（40）が、多様な個性を認める社会の実現を目指し、障がい者の芸術文化支援を目的としたアート展「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 企画展 ミュージアム・オブ・トゥギャザー」（13～31日、東京・スパイラルガーデン）に作品を出展したことが13日、分かった。公式サイトで発表された。「作家の香取慎吾さんが出展」と紹介。以前からアート活動を展開していた香取だが、今年9月にジャニーズ事務所を退社してからは初。“新アート活動”に注目が集まりそうだ。



障がい者や現代美術家ら22人の作品と、香取の作品「イソゲマダマニアウ」「火のトリ」、計約500点を展示。「どんな人にも開かれたアクセシブルな美術館として、誰でも楽しく、居心地よく過ごせる環境」を提供する。

香取はコメントを発表し「障害があるかどうかは関係なく、人は誰かがいないと生きてはいけません。僕自身、誰かにサポートしてもらいたいと思うこともありますし、困っている人がいたらサポートしてあげたいと思う。そうした感情に垣根はないと思うんです。そして、このことに気づかせてくれる一つのきっかけがアートなのではないかと思います」と今回の企画に賛同。



「僕にとってアートとは、ルールやゴールが存在しないもの。始まりにも終わりにも正解はなく、自分の物差しで決めることができる、かけがえのないものです。常日頃、そんな思いを抱いている僕が、このような境界線のないアート展に参加できるなんて、こんなにうれしいことはありません」と喜んでいる。

「イソゲマダマニアウ」（2010年）は油性マジックによるもので、香取は「漫画にこんなキャラクターがいたらいいな、と閃いて描き始めた作品です。いつも無心に描いているうちに、キャンパスの中に世界が現れてくる。“自分じゃない自分”のような不思議な感覚があります。僕の作品には、どこか共通して飛び出したい、羽ばたきたい、といった、心のつまりを絵の中にぶつけているようなところがあるのかもしれませんが。この作品も、仕上がりを改めてみると、抜け殻のようなスカルに『ま

だ間に合うから大丈夫、一緒に行こう!』と投げかけているようにも思います」とコメント。

「火のトリ」(14年)はデコレーションペンによるもので「爆発していますね…この作品は頭がオーバーヒートしたときに描き始めました。描くまでの心の状態は爆発しそうにつらくて、でも描き始めるとその感情を払拭するように華やかな色合いが出てきて、だんだんと心が落ち着いていくんです。マイナスをプラスに変えようと、熱く燃える炎が“火のトリ”になっていく。人生のように、いい時もあれば悪い時もあるけれど、最後には『OK!晴れました!』という絵を、僕は描きたいのだと思います」とコメントしている。

## あの女性社長、ついに登場 慎吾は芸術と“二刀流”で

中日スポーツ 2017年10月14日

元SMAPの香取慎吾(40)が13日、東京・南青山のスパイラルホールで行われた障害者の芸術文化支援を目的としたアート展「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS企画展 ミュージアム・オブ・トゥギャザー」(スパイラルガーデンで31日まで)のレセプションに出席、同展には自身の作品を出展した。

終了後、元SMAPのチーフマネジャーで、9月8日に香取とともにジャニーズ事務所を退社した稲垣吾郎(43)と草なぎ剛(43)のマネジメントを手がける「株式会社CULEN(カレン)」の飯島三智社長(59)が報道陣の取材に応じた。



ジャニーズ事務所退社後、初めてイベントに出席した香取慎吾＝東京・南青山で

SMAPは昨年1月に分裂・解散騒動が勃発。その後、飯島社長はジャニーズ事務所を退社したが、騒動勃発後、今回初めて公の場に登場した。

飯島社長は今回、香取が出展した経緯について「日本財団さんからお話をいただいて、今まで描いてきたものがあってのお出ししました」と説明。香取の自宅には書きためた100点以上の作品があるという。

3人の公式ファンサイト「新しい地図」での予告通り、今月16日にサイトが本格的に始動するという。同社と3人の関係については「彼らは1人のアーティストなのであくまでビジネスパートナー。彼らの意見を聞きつつやっていきたい」と説明。「今後はアート活動に専念」という報道もあった香取だが、芸能活動と

並行することを説明した。

### ◆2作品を初めて出展

もともとSMAPと並行してアート活動をしていた香取。今回は2010年に油性マジックなどで描いた「イソゲマダマニアウ」、14年にデコレーションペンなどで描いた「火のトリ」の2点を出展。自身の作品を初めて人前で披露した。

香取はジャニーズ事務所退社後、初のイベント登場。肩書作家と紹介されると「とてもうれしいです」と満面の笑み。「絵は自分の心をぶつける場所」と話し、作品の特徴を説明。「僕も何回も来ますので、みなさんもぜひ楽しみに来てください」と呼び掛けた。

終了後、報道陣から心境を聞かれると、「うれしいです。これからもこういう形でアートにかかわっていけたら」とうれしそうに話した。

## 「太陽の家」に新作業所 障害者の自立に一役

大分合同新聞 2017年10月14日

社会福祉法人「太陽の家」(別府市内竈)内に、六興(ろっこう)電気(本社・東京都、長江洋一代表執行役社長)のシステム開発部別府作業所が開設された。太陽の家から宇佐

真一さん（47）＝同市＝が社員として雇われ、電気配線工事の部品「36（サンロク）



バインド」の在庫の管理や出荷を担当。障害者の雇用の機会が広がった。

六興電気システム開発部別府作業所の第1号社員となった宇佐真一さん

太陽の家は2002年から同社と共同で、電気の配線を固定する「36バインド」を開発、製造してきた。名称は英語で太陽を意味する「サン＝3」、六興電気の「6」を組み合わせた。現在は太陽の家の障害者が年間で22品



目、計500万個を超える同社の商品を組み立てている。

同社は障害者の雇用率向上を目指し、7月末に別府作業所を設置した。社員第1号となった宇佐さんは、これまで同社の商品を重点的に組み立ててきた。立場は変わったが、出荷の際は「全国各地の工事現場に届いたときに分かりやすいように」と丁寧な仕事を心掛けているという。

榎本聡同社システム開発部長兼CIOは「太陽の家の山下達夫副理事長から助言を受け、雇用を決めた」と話す。山下副理事長は「(六興電気は)障害者の雇用に理解がある。今後も一人でも多くの障害者が一般の企業に就職し、自立できるようになってほしい」と願っている。



病と闘う子にXマスカードを さっぽろ地下街で作る催し

北海道新聞 2017年10月14日

病院や施設で過ごす子供へのクリスマスカードを作る参加者

札幌市の病院や施設で過ごす子供に届けるクリスマスカードを作るイベントが13日、同市中央区のさっぽろ地下街オーロラプラザで始まった。今年で4年目。昨年は道外や海外を含め900枚以上も集まるなど、年々広がりを見せている。

福祉関係者ら約10人でつくる実行委の主催。取り組みは岩見沢市で福祉用具販売会社を営んでいた故笠間寿さんが始めた。2014年に札幌北楡病院に入院し、小児病棟の子供に接したのがきっかけ。療養中の子供が直面する教育などの問題を広く知ってもらいたいと、カードづくりのイベントを思い立った。

「ホスピタルイン獨協医科大」来年1月11日プレオープン 壬生 正式営業は3月から

下野新聞 2017年10月13日

獨協医大の敷地内に建設が進む東横イン系列のホテル「ホスピタルイン獨協医科大」（壬生町北小林）が、来年1月11日にプレオープンする。同3月1日に正式に営業を開始する。プレオープン期間の約1カ月半は従業員研修も兼ねるため、割引価格で営業する。

同ホテルは同医大病院の利用者や患者の家族向けの473室。当初の計画より31室増やしたが、延べ床面積は変わらない。近日中にホームページを開設する。

宿泊価格は1泊シングル(52室)5300円、デラックスシングル(169室)6300円、プレミアムシングル(19室)1万5千円、ツイン(219室)7300円、デラックスツイン(9室)1万円、スイート(1室)2万円、障害者用のハートフル(4室)7300円。プレ期間は、シングルとデラックスシングルが3900円、プレミアムシングルとツイン、デラックスツインが5900円(以上税別)で宿泊できる。

## 2世代高齢者 元気集う場 FRaT (ふらっと) 中日新聞 2017年10月14日 「地域の人と一緒に育てるカフェにしていきたい」と語る中田伸太郎社長



### 介護施設の隣 カラオケ楽しめるカフェ 小松・きょうオープン

石川県小松市八幡の介護施設運営会社「寿」が十四日、運営する介護施設の隣にカラオケも楽しめるコミュニティーカフェ「FRaT (ふらっと)」をオープンさせる。周りは自然に囲まれ、緩やかな時間が流れる。定年を迎えた地域の高齢者だけでなく、介護施設の利用者も一緒に交流できる場づくりを目指している。(谷大平)

広々とした開放的な空間。床や柱にふんだんに使われた天然木の香りが部屋全体を包む。庭に面したガラス戸からは、手入れの行き届いた芝生や花壇に咲く多彩な花が見える。



小松市中心部から山側に三・五キロ。丘のような小高い山が近いこの場所で、寿はデイサービス施設と老人ホーム二軒を運営する。昨年冬には、庭を介して介護施設と自由に行き来ができるカフェの整備を始めた。

### 14日にオープンするコミュニティーカフェ「FRaT」=いずれも石川県小松市八幡で

カフェは月曜から土曜までの午前九～十一時、午後一～五時に開放。一杯百円のコーヒーを味わいながらカラオケを無料で利用できる。気軽に寄ってもらおうと飲食物の持ち込みも可能。

日曜はレンタルスペースとして貸し出し、二階はセミナーや各種教室としての活用も見込んでいる。

「暗くて閉鎖的というイメージが介護の現場にある。そのイメージを変えたいんです」

寿の中田伸太郎社長(35)は、日本が高齢化社会を迎える中で福祉の未来を思い描く。国内の有料老人ホームの入居者の年齢は平均八十八歳。入所者にとって子どもと同じ年代の地域の高齢者がカフェに集まることで、介護施設の利用者も自然に元気になる。介護の現場で働く人だけでなく、「地域と介護の距離が縮まり、交流のきっかけになってほしい」との願いだ。

「人が幸福を感じるのは人と人とのつながり」と信じる中田社長。自身も五年前に始めた趣味のサーフィンを通して「人と人とのつながり」の大切さを肌身で感じた。サーフィンをするため一人で米国西海岸やタイのプーケットを訪れたこともあった。海の水は海外の方がきれい。それでも地元の同県加賀市の海岸をホームにする仲間とサーフィンをするのが一番楽しかった。

カフェ「FRaT」の名前には、地域に開放された場所で「垣根のない」という意味の英語と日本語の「ふらっと立ち寄れる」施設にとの思いを込めた。十四日のオープンを前

に中田社長は「新しい試みで手探り状態。地域の人と一緒に育てるカフェにしていきたい」と笑顔を見せた。

### もしもの時のエンディングノート 小野で書き方講座

神戸新聞 2017年10月14日

認知症や寝たきり状態などに備え、エンディングノートに記入する参加者＝小野市福祉総合支援センター



寝たきりになったときなどに備えて家族に伝言を残す「エンディングノート」の書き方講座がこのほど、兵庫県小野市福祉総合支援センター（同市王子町）で開かれた。60歳以上の市民約30人が参加し、家系図を書いて法定相続人を確かめたほか、やり残したことなど今後の夢も書き込み、人生の総仕上げについてじっくりと考えた。

市シニア活躍推進課が9月から6回開いた「セカンドライフ応援セミナー」の最終回。

共催のみなと銀行が、明治安田生命（大阪中央区）の山田まさ恵課長（45）に講師を依頼した。

山田課長は参加者にまず、人生の夢が実現できたか、後悔はないかと質問し、夢を阻むものとして病気や要介護状態などを挙げた。エンディングノートは形式が自由で、家族への感謝などさまざまな思いを書き込めるが、法的効力がないため、将来の遺言書作成の準備として取り組むことを勧めた。

参加者は用意されたノートの書式に沿って、介護を受ける場所として自宅か施設かなどを記入。がん告知や延命治療、献体の希望などについて書く欄もあった。山田課長は「記入には労力がある。思い立った今日が一番若い。元気なうちに一ページずつ書いて」と呼び掛けた。

親族を亡くした時、保険証書などの場所が分からずに苦労したという主婦（62）＝小野市久保木町＝は「終活は家族任せにせず、きちんとノートに残して準備しておきたい」と話していた。（笠原次郎）

### 君の隣の「孤立」 本紙連載「孤絶」記者の出前授業から

読売新聞 2017年10月13日

中高生未来創造コンテスト開催にあたり、編集室では各地の中学・高校で、本紙連載「孤絶 家族内事件」の担当記者による出前授業を開催してきました。同世代は「孤立」問題をどう捉えたのか。授業で出した意見を紹介します。

#### 仕事一筋の男性 定年後は――桜蔭中・高（東京）

東京都文京区の桜蔭中学・高校で行われた出前授業には社会科部、ボランティア部、新聞部と中3の生徒有志計32人が参加した。

授業では「孤絶」取材班の読売新聞東京本社社会部の小田克朗記者が講師となり、社会からの「孤立」が原因で起こった介護殺人、虐待事件の現状などについて解説。その後、生徒たちは4班に分かれ、グループディスカッションを行った。

まず生徒たちが議論したのは、「身近にいる孤立する人」について。

遠く離れて暮らす独り暮らしの親戚、近所の公園でいつも独りぼっちでいるおじいさん、



学校でも家でも孤独を感じている子ども……。参加者の口からは様々な「孤立」が飛び出し、各グループはそれらの人たちが抱える課題を解決する方法を具体的に考えた。

男性高齢者の孤立について議論したのは社会科部のメンバーたち。仕事一筋の生活を送り続けた人は地域との結びつきが薄くなりがちとの考えから、企業が、定年を間もなく迎える社員を地域活動に積極的に参加させるべきだと提案した。

高2の生徒は、自身が住むマンションのサラリーマンの将来を想像して考えたといい、「自分の身近にあることをもとに、日本全体が抱える問題の解決策を考えることは、とても刺激的だった」と話した。

### 認知症介護家族 笑顔のために——郁文館・郁文館グローバル高（東京）

郁文館高校と郁文館グローバル高校（いずれも東京都文京区）の合同で行われた出前授業には、社会福祉や少子高齢化について学ぶゼミを選択する生徒など25人が参加した。

グループディスカッションで、「認知症の家族がいる家庭のための付き添いサービス」というアイデアを提案したのは、グローバル高校1年の女子生徒らのグループ。認知症の家族を抱える人が「家族で出かけるにも付きっきりでなければならず、当たり前でできたことができなくなったのがつらい」と話していたことを思いだし、「旅行でも買い物でも、もう1人、付き添ってサポートしてくれる人がいれば、気軽に外出することができるのでは」（女子生徒）と考えた。

郁文館高校2年の男子生徒らのグループは、遠く離れて暮らす家族との“心の距離”を縮めるための方策について話し合った。思いついたのが、家族の撮影した写真が自動的にアップされるフォトフレーム。デジタル機器に詳しくないお年寄りでも、これなら家族の存在を身近に感じることができる、というわけだ。

男子生徒は「高齢者の孤立問題について真剣に考える貴重な機会になった」と語った。

### 老老介護 いつか僕も？——同志社中（京都）

京都市の同志社中学では3年生2クラスの社会の授業で出前授業を行った。同志社中では小田記者による約40分間の講義をビデオで撮影し、日程の都合で受講できなかった3年生の他の6クラスでも映像を通して孤立問題について考えてくれた。

生徒会長は、日本の15歳が欧州各国の同世代と比べ、孤独感を感じている割合が多い、とのデータに驚いた。生徒会長は、「世の中だけではなく、学校内でも輪の中に入るのが苦手な子もいる。学校としても、こうした現状をどうしたら変えられるのかを考えることも必要だと思った」と話した。

老老介護の問題の深刻さに気付いたという男子生徒は「自分たちの祖父母世代だけでなく、将来は親や僕らの世代にも降りかかってくる問題だとわかり、自分たちで解決策を考えなければ」と感想を語った。

### 話し合ってみよう

#### 【1】身近な例を思い浮かべる

自分の知り合いや自分が暮らす地域に「孤立」に悩む人はいないか思い浮かべ、どんな人の問題を解決するか決めよう。

（例）子どもと離れて暮らしている妻を介護中の男性高齢者 など

#### 【2】孤立した人が抱えている問題は何か考える

その人が抱えている悩みや問題は何か？ その人たちの生活パターンや気持ち、置かれている状況を具体的に想像し、どのような悩みや問題を解決するか決めよう。



(例) 子どもは仕事が忙しく、めったに会いに来てくれない

### 【3】アイデアを具体的に考える

【2】で決めた悩みや問題を解決するためのアイデアを具体的に考えよう。

## 視覚以外の感覚の可能性探ろう 瀬戸内で14日ワークショップ

山陽新聞 2017年10月13日

14日	「僕らは暗闇から何を見いだせるのか？」	邑久光明園 【1部】講演、午後2時～3時 【2部】パネルディスカッション 午後3時15分～5時 無料、要予約
15日	朗読と音楽の絵「かたりとしらべ」 <出演>阿部はまじ、伊藤ゴロー	長島愛生園、午後2時～ 前売り2500円(当日3500円) 小学生以下無料
21日	「この世界の片隅に」上映会	邑久光明園、午前9時～ 前売り1000円(当日1500円) 小学生以下無料
21日	「この世界の片隅に」上映会 コトリングのすずさんと ハナウタライブin長島	長島愛生園 【上映】午後1時半～ 【演奏】午後4時～ 前売り3000円(当日4000円) 小学生以下無料
22日	トウヤマタケオと阿部海太郎の イマジナリー楽団	長島愛生園、午後2時～ 前売り3000円(当日4000円)

瀬戸内市・長島の国立ハンセン病療養所邑久光明園(同市邑久町虫明)で14日、暗闇の中で行うドイツ生まれのワークショップ「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」をテーマに、講演とパネルディスカッションが開かれる。

福祉を通じたまちづくりを考える一般社団法人「ひばりエンタテイン

メント」(岡山市)が瀬戸内市の協働提案事業として企画した催し「長島アンサンブル」での取り組み。

「ダイアログ…」は案内役を目の不自由な人が務め、参加者は視覚以外の感覚の可能性を体感できるのが特徴。目の不自由な人の雇用を促進する手法にも活用されている。ハンセン病により失明する人がいたことから、ひばりエンタテインメントは長島への体験施設の誘致を検討している。

「僕らは暗闇から何を見いだせるのか？」と題し午後2時から。体験施設の国内運営組織代表の講演の後、武久顕也瀬戸内市長や地域活性化の専門家らが意見交換する。入場無料で要予約。問い合わせは同法人(086-230-2833)。

### ◇朗読やライブ 15日から「長島アンサンブル」

長島アンサンブルでは15日から22日にかけて、邑久光明園と長島愛生園(瀬戸内市邑久町虫明)でモデル浜島直子さん夫妻の創作ユニット「阿部はまじ」の朗読や、映画「この世界の片隅に」の劇中音楽を担当したコトリングさんのライブなど、多彩なイベントを繰り広げる。概要は長島アンサンブルの特設ウェブサイトで紹介している。23日までクラウドファンディングサイト「レディーフォー」で運営資金も募っている。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も

